



岐阜県内のマダニの病原体保有状況調査について（継続課題）

<目的>

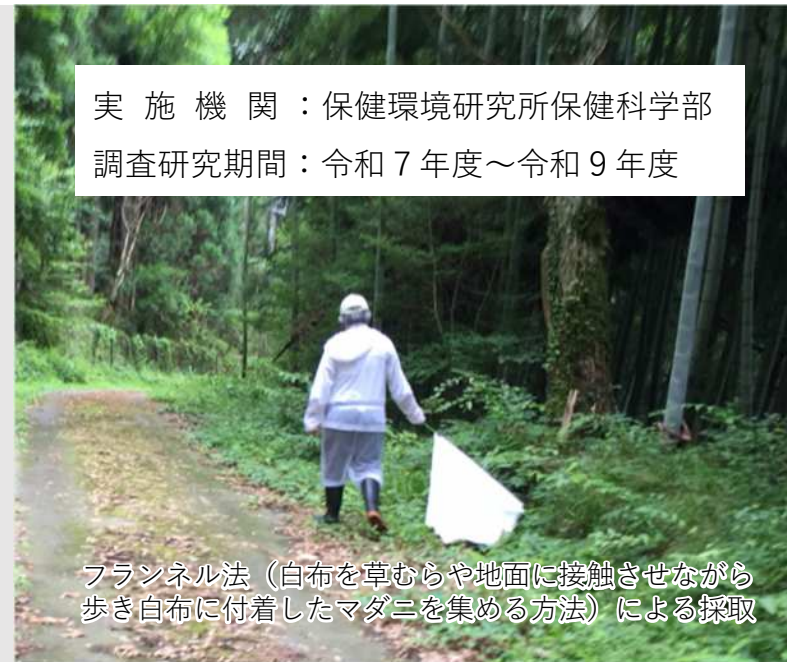
- ・マダニは種類によって吸血時に標的とする動物や、媒介する病原体の種類が異なる。
- ・以前の調査において、岐阜県内各地に病原体を媒介できる種類のマダニが生息しており、病原体を保有するマダニも採取出来たことを報告した。
- ・県内のマダニの分布と病原体の保有状況をより調査することで、ダニ媒介感染症の注意喚起や考察等を行う際の根拠となるデータとして活用することを目的とする。

<方法>

- ・ダニ媒介感染症患者の推定感染地を中心に県内各地でマダニを採取する。
- ・マダニの採取はフランネル法を用いて行い、顕微鏡観察によって種類を同定する。
- ・同定後のマダニはすりつぶして遺伝子を抽出し、遺伝子検査によりSFTSウイルスや日本紅斑熱リケッチアなどのマダニが媒介する病原体遺伝子の保有状況を確認する。

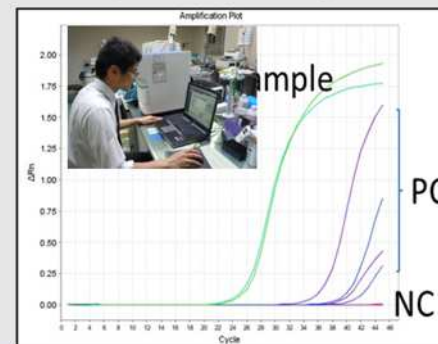
<経過報告及び今後の方向性>

- ・R7年は岐阜県内でSFTS患者が1名、日本紅斑熱患者が6名報告された。
- ・その推定感染地を中心に採取し、岐阜市で14匹、山県市で18匹、各務原市で89匹、中津川市で52匹のマダニを採取した
- ・マダニ種はフタトゲチマダニ167匹、フタトゲチマダニキチマダニ4匹、ヒゲナガチマダニ2匹であった。
- ・173匹中60匹の遺伝子検査を行ったが、SFTSウイルス及び日本紅斑熱リケッチアの遺伝子は検出出来なかった。
- ・R8年度はマダニが一番多く採取できる4～5月、9～10月頃にダニ媒介感染症患者の推定感染地周辺、及び前回調査時に病原体保有マダニが採取出来た地点にマダニの採取に行き、それ以外の期間に遺伝子検査を行う予定



《遺伝子検査》

(リアルタイムPCR)



(シーケンスによる解析)

